

「物流の効率化に向けた対応」の参考資料

第10回医療機器の流通改善に関する懇談会
(令和5年11月2日開催) 資料1 抜粋

業界団体による対応策を踏まえた、医療機器業界での取組について

その他、一般的な物流の効率化のために他業界の業界団体により実施されている対応策を参考にすると、医療機器業界においては、以下のような取組を行うことが考えうるのではないかと。

凡例 ○ : 実施実績あり ✓ : 考えられる取組の内容

対応策*1	業界団体											実施主体	
	日本自動車工業会*2*3	日本電機工業会*3	日本化学工業協会*2*3	日本製紙連合会*2	日本建材・住宅設備産業協会*2	全国農業協同組合連合会*2	全国中央市場青果卸売協会*2	食品物流未来推進会議*3	日本加工食品卸協会*2*3	日本スーパーマーケット協会*2	日本鉄鋼連盟*2	製販/運送	販売
物流データ可視化								○		○		✓	✓
バース予約システム導入			○	○			○					✓	✓
荷役作業削減			○	○				○		○	○	✓	✓
パレット化			○			○	○			○		✓	✓
外装表示の標準化							○	○				✓	
拠点配置・ルート見直し		○							○			✓	✓
共同配送	○	○	○	○	○				○	○		✓	✓
モーダルシフト		○	○	○		○	○				○	✓	✓
中継地点の設置				○		○						✓	✓
時間指定の柔軟化				○	○				○			✓	✓
リードタイムの延長				○				○	○	○		✓	✓
積載効率の向上	○	○	○					○		○		✓	✓

*1 業界団体発表資料に記載のある対応策のうち、複数の業界団体によって実施されている対応策を記載

*2 出所：国土交通省「持続可能な物流の実現に向けた検討会」業界団体発表資料
https://www.mlit.go.jp/seisakutokatsu/freight/seisakutokatsu_freight_mn1_000023.html

*3 出所：経済産業省「第5回 総合資源エネルギー調査会 省エネルギー・新エネルギー分科会省エネルギー小委員会 荷主判断基準ワーキンググループ」資料
https://www.meti.go.jp/shingikai/enecho/shoene/shinene/sho_energy/ninushi_wg/005.html

参考：対応策の詳細

業界団体による対応策の詳細は以下のとおり。

対応策	対応策の詳細
物流データ可視化	・ 拠点間輸送量、誤出荷率、積載率など様々な物流データを分析・可視化し物流コスト等の情報を把握することで物流管理を強化する
バス予約システム導入	・ トラックバス予約システムを導入することで、ドライバーの荷待ち時間を削減する
荷役作業削減	・ 荷積みスペースの拡充、無人荷役機器の導入、トレーラーの活用等によりドライバーの荷役作業を効率化する
パレット化	・ 荷姿をパレット化することで荷役時間を短縮し、輸送効率を向上させる
外装表示の標準化	・ 外装のレイアウトや表示項目を標準化することで、検品作業やピックアップ作業を効率化する
拠点配置・ルート見直し	・ コストやサービスレベルを考慮し、サプライチェーン全体の拠点配置やルートを見直すことで輸送効率を向上させる
共同配送	・ 複数の物流事業者・荷主が連携し、輸送モードを共有し、積載率及び実働率を向上させる
モーダルシフト	・ トラック等自動車で行われている貨物輸送を鉄道や船舶の利用へ転換することで、省人化を促進する
中継地点の設置	・ 長距離輸送において、中間地点でドライバーや貨物を交代することで、ドライバーの長時間労働を解消する
時間指定の柔軟化	・ 集荷や納品の時間指定を柔軟化することで輸配送の集約など効率的な配車を実施できるようにする
リードタイムの延長	・ 輸送網の集約やモーダルシフト等を実施するため、リードタイムを延長し輸送負荷を軽減する
積載効率の向上	・ 梱包荷姿の小型化・軽量化設計、コンテナの設計等により積載効率を向上させる ・ 配送拠点向けに製品を出荷する際、案件ごとの個別出荷を集約出荷へ切り替える